

index

特集

- 新生児集中治療室 (NICU)の役割
- 視能訓練士の役割

トピックス

- 大腿骨頸部骨折手術後のリハビリテーション目的での転院について
- 高校生一日看護体験・インターンシップ
- 病院ボランティア「いちごの会」10周年記念式典
- おシゴト紹介(皮膚排泄ケア認定看護師)

イベント紹介

- 公開医療福祉講座
- 院内コンサート

お知らせ

- 糖尿病食 食事会のお知らせ
- 公開医療福祉講座のお知らせ
- 保険証の確認について
- 面会時間のご案内
- 編集後記
- 診療日カレンダー



病院理念

- 一. 私たちは「患者さん中心の医療」を実践します
- 一. 私たちは患者さんの安心と信頼を得るように努力します
- 一. 私たちは医療人としての誇りと自信を持って行動します

新生児集中治療室（NICU）の役割

わが国の出生数は減少傾向が進む一方で、出生体重2,500g未満の低出生体重児の出生数は逆に増加しています。特に出生体重1,000g未満の超低出生体重児に至っては、1980年には1,500人弱であったものが、2005年には3,341人と2倍以上に急増しています。これらの子どもがすべて生存しているわけではありませんが、年々死亡率は減少してきています。900g台の体重であれば95%以上の児が新生児期を乗り越えてくれることが明らかになっており、500g未満の子どもにおいても1985年には90%以上の児が死亡していたものが、2005年では50%を下回るまでに改善しています。

このようにわが国において多くの小さな新生児が救命されるようになったのは、NICUの導入が大きな役割を果たしてきたといえます。出生体重1,500g未満の児や、重症な新生児を救命するには、呼吸・循環管理をはじめ、感染症の管理、栄養の管理などの専門的な管理を、清潔な空調の完備された部屋で、新生児専用の保育器や人工呼吸器などの機器を駆使して行う必要があります。保険診療上でも、設備の面だけでなく、専任医師の配置や看護師の数も規定されており、十分な人手の確保も求められた上で成り立っている医療です。

当院は2010年より尾張北部医療圏の地域周産期母子医療センターとして認定されています。新生児医療においては、新生児専門医2名と新生児集中ケア認定看護師1名を含めたスタッフで診療を行っており、昨年度は出生体重1,500g未満の極低出生体重児22例を含め、210例の新生児が入院されています。

全国的にNICU・GCU（NICUの後方病床）の病床不足が問題視されていますが、愛知県でもこれは課題とされてきました。愛知県の周産期医療体制整備計画の一環として、当院では昨年9月から新生児センターの拡張工事を開始し、今年4月からはNICU6床＋GCU12床となりGCUの規模が拡大されました。これに伴ってより多くの新生児を受け入れることが可能な環境となっています。私たちはこの地域の方々が、安心して子どもを産み、育てることのできる環境を提供できるよう、一層の努力をしていきたいと考えています。



こども医療センター
副センター長・第二小児科部長

竹本 康二

視能訓練士の役割

「視能訓練士ってどんな仕事しているの?」こんな質問をよく受けます。

視能訓練士の仕事の内容は大きく2つに分けられます。

1つは眼科医が病気を正確に診断・治療するための基礎となる検査を行うことです。具体的には視力、視野、色覚、眼圧、眼球運動、眼底撮影などの検査です。

もう1つは、弱視(視力の弱い状態)や斜視(ものを見るときに一方の目が正しく目標に向いていない状態)などの子どもの患者さんに対して、機能向上のための訓練を行うことです。他にも、視覚障害者のリハビリ指導を行っています。

弱視や斜視では早期発見し治療すると視覚機能が取り戻せる可能性もあり、視能訓練士としてのやりがいと責任を感じながら仕事に励んでいます。



外界の情報の8割は視覚から取り入れられることが知られており、視覚は生きていく上で非常に大切なものであり、視覚に障害のある患者さんのストレスは大きいと思います。

私たちは視能訓練士として少しでも患者さんの力になれるよう努めていきます。

医療福祉相談室から

大腿骨頸部骨折手術後のリハビリテーション目的での転院について

当院にて大腿骨頸部骨折の手術を受けられた方は、手術から約10日後に抜糸をし、問題がなければリハビリテーション(以下、リハビリ)が中心となります。リハビリに必要な日数はお一人おひとりの元々の身体機能や年齢などによって異なりますので、継続して在宅に至るまでの間リハビリを行った方が良い場合は地域の回復期リハビリテーション病院へ転院をして、リハビリを行うこととなります。

病院の地域での役割分担により、当院のように救急・手術を担う病院では、リハビリを専門に行う病院と連携して、ひとりの患者さんを支援する「地域連携パス」を導入しています。

当院では近隣の回復期リハビリテーション病院へスムーズに転院できるよう、7つの病院と年に3回の合同会議を通して連携しています。そして手術実施日にソーシャルワーカーが面談させていただき、本人・ご家族の希望に応じた回復期リハビリテーション病院への転院支援を行っています。



高校生一日看護体験・インターンシップ

看護師を志す地域の高校生を対象に、8月7日(水)に愛知県主催の高校生一日看護体験研修を、7月26日(金)、8月22日(木)に当院のオリジナルインターンシップを開催しました。

BLS(一次救命処置)や手指衛生、血圧測定などの実践や、ベッドサイドでの看護ケアを通し患者さんと触れ合う中から多くの感動体験をすることができたようです。

今回の体験を通し、「ぜひ看護師になりたい!」との思いを再確認した学生も多くあり、有意義な夏休みの1日となりました。



病院ボランティア「いちごの会」10周年記念式典

5月21日(火)に、病院ボランティアとして活動していただいている「いちごの会」の皆様に対し、日頃の感謝の気持ちをお伝えする場として、10周年記念式典を開催しました。

当日は、病院長、看護部長が感謝の言葉を述べ、感謝状ならびに職員からの寄せ書きなど記念品を贈呈しました。

「いちごの会」は平成15年より、当時の昭和病院で活動が始まりました。江南厚生病院になってからも活動は継続され、現在は40名弱の皆様で会の発展を支えてくださっています。中には、10年間活動を継続されているボランティアの方も4名みえます。

ボランティアの活動は無償であり、地域住民の立場での自主的な活動です。自分の時間を病院で何か貢献したいというボランティアの皆様から、職員は多くの事を学ばせていただいています。

病院を利用する立場に立った視点での活動は、「外来」「患者図書室」「緩和ケア病棟」で実施されています。「外来」では、正面玄関で車からの乗降時の支援や案内、車イスの整備などを、「患者図書室」では、貸出し用の本のしおりづくりや本の整理、受付のお手伝い、一部の病棟への本の配達などを、「緩和ケア病棟」では、病棟の環境整備や患者さんへの行

事のお手伝いなど、幅広くきめ細やかな支援をいただいています。病院で、黄色いエプロンをつけて活動されている姿をご覧になられた方も多いのではないのでしょうか?



ボランティア活動に興味関心のある方は、ぜひお問い合わせください。毎月オリエンテーションを実施しています。お話を聞かれた上で、皆さんの時間を病院で生かしてみませんか?



【問合せ先:総務課または医療福祉相談室】

病院では様々な資格を持った多くのスタッフが、互いの専門性を生かしながら協力し合っ
て働いています。その中で今回は皮膚・排泄ケア認定看護師のおシゴトを紹介します。

皮膚・排泄ケア認定看護師は、床ずれや糖尿病による足の皮膚トラブルなど傷に関
するケアや、ストーマ（人工肛門や人工膀胱）を造られた方の皮膚や日常生活、心の
悩みなどのケア、便や尿の漏れに関するケア、皮膚の乾燥やむくみなど皮膚と排泄に
まつわるケアを専門的に行う看護師です。当院には 3 名の皮膚・排泄ケア認定看護
師が従事しています。

普段は、床ずれができないように病室に定期的に伺い、患者さんに合わせたマットレ
スを選んだり、身体の向きの変え方を病棟看護師とともに考えたり、ソーシャルワーカー
と在宅療養に向けてベッド環境を整えたりさせていただいています。また、ストーマを造られた方が、手術の前と変わらない
日常生活を送れるようになるためのお手伝いさせていただき外来も担当しています。

今後も多くの患者さんが安心して入院生活を送れるよう、あるいは家ででの生活を続けられるよう医師や看護師、ソーシ
ャルワーカーなどと協力して環境作りをさせていただきたいと思っています。



公開医療福祉講座

6月14日(金)がん看護専門
看護師の宇根底亜希子が
「もしもがんと診断されたら
…」というテーマで講座を開
催しました。



6月14日

がんと診断されると、誰もが
ショックを受け、その後もと
まどうことばかりです。がんとうまく付き合っていくには、
自分の病気について知ること、主治医との信頼関係を
築くことが大切で、そのためのコツをお話しさせていた
きました。

7月12日(金)がん看護専門
看護師の祖父江正代が「大
切な人を看取る時」という
テーマで講座を開催しました。
大切な人を看取る時、その
傍にいらっしゃるご家族も、とて
もつらい気持ちになります。私
たち医療者は患者さんの苦痛が
増強しないようにケアをさせ
ていただいておりますが、傍に
いる、ご家族にしかできない
ことがたくさんあります。大切
な人を看取る時、そのころの
あり方や患者さんへの関わり
方などについてお話しさせて
いただきました。



7月12日

8月26日(月)小児科部長こども医療センター長の西村直子が「どうする?こどもの応急処
置」というテーマで講座を開催しました。小さな子どもをもつ親であれば知っておきたい
応急処置の知識についてお話しさせていただきました。

たくさんの方が来院され、家庭における対応について熱心に聴講されました。なお、NPO法
人「子どもと文化の森」による託児協力をいただきありがとうございました。



8月26日

Event

イベント紹介

院内コンサート

6月24日(月)に春日八郎さんの
「木曾の舟歌」の作詞家だ
る奥村鋭男さんらにお越
しいただき、心にしみる演
歌をご披露いただきました。
懐かしい曲目に皆さん心
がなごむ時間を過ごして
みえました。



6月24日

7月24日(水)にコーナン
フラインコールによる合
唱コンサートが行われま
した。民謡を口ずさみ
ながら、皆さん楽しい
時間を過ごしてみえ
ました。



7月24日

8月9日(金)に幼児～高
校生までの総勢23名に
よるバイオリンコンサ
ートが行われました。
会場全体が素敵な音
色で包まれ、楽しい
ひと時を過ごして
みえました。



8月9日

糖尿病食 食事会のお知らせ

みなさん、糖尿病の食事療法はうまくいっていますか？食事療法は、実際に食べてみるのが一番です。毎年恒例の糖尿病食 食事会を下記のように企画しましたので、奮ってご参加ください。

当院の患者さんご家族以外の方もご参加いただけます。

なお、準備の都合上、予約制とさせていただきます。予約は、内科受付にて行いますが、定員となり次第締め切りとなりますので、ご了承ください。

(電話での予約は13:00～16:00に限定させていただきます。)

※電話予約:代表(0587)51-3333

日 時:平成25年11月16日(土) 11時30分～13時頃まで

場 所:江南厚生病院 2階 講堂

費 用:お一人につき600円 当日受付でお支払いいただきます。(混雑防止のため、おつりのないようにご準備ください。)

予約期間:10月1日(火)～定員60名になり次第終了

※ご不明な点は内科外来17番 看護師にお尋ねください。

2013年公開医療福祉講座のお知らせ

江南厚生病院では、地域住民の皆様向けに、医療や福祉に関する情報を提供していく目的で講座を開催します。今年度は、以下のような企画をしております。参加は自由ですので、どうぞお気軽にお越しください。

日程と内容

10月22日(火)	乳がんについて ～腋窩リンパ節郭清とリンパ浮腫～	乳腺内分泌外科 部長 飛永 純一 主任看護師 赤堀はるみ
11月21日(木)	腎臓病のはなし	腎臓内科 部長 平松 武幸
12月6日(金)	明日は我が身！ 身近な認知症のお話と対策	江南中部地域包括支援センター長 大森 美穂

場所

江南厚生病院
2階講堂

時間

13:30～14:30

お問い合わせ

江南厚生病院
医療福祉相談室まで
TEL(0587)51-3333

●保険証の確認について

当院では毎月一度保険証の確認を行っています。外来受診の際は各外来受付か新患受付へ、入院中の方はスタッフステーションに保険証をご提示ください。なお、氏名、住所、電話番号等の変更があった場合もご提示をお願いいたします。

●面会時間のご案内

平日	15:00～20:00
土・日曜日・祝日	13:00～20:00

※4人床の面会は、同室の患者さんの迷惑にならないよう談話コーナーなどをご利用ください。

※患者さんの安静は治療上大切です。容体によっては面会をお断りする場合があります。

編集後記

●今年の夏は記録的な猛暑が続き、熱中症等により体調を崩された方がたくさんみえたかと思います。気候も良くなり、行楽シーズンですので私は秋を探しに出かけたいと思います。皆さんもそれぞれの“秋”を見つけてみてはいかがでしょうか。

2013年 診療日カレンダー

■ 休診日(第2・4・5土曜日は休診です)

● 午後休診

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	8	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	26	26	27	28	29	30

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

●発行日/平成25年10月1日

●発行/JA愛知厚生連 江南厚生病院 広報委員会

〒483-8704 愛知県江南市高屋町大松原137番地 TEL(0587)51-3333 FAX(0587)51-3300